乗円寺 寺報

2023年 9月
秋のお彼岸・報恩講号
寺報から訊く 寺報No39

報恩講・永代経スケジュール

10月4日（水）

9:50～　永代経お参り
10:10頃～ 法話
「うば捨て山」から気づく仏の智慧
講師：善福寺院内　高科 修 師
11:00～ 報恩講お参り
12:00頃～ お斎

10月5日（木）

9:50～　納骨堂報恩講
10:10頃～ 法話
安心して生きる道 ②
講師：西定寺　定舎 浩吉 師
11:00～ 報恩講・永代経お参り
12:00頃～ お斎

どなたでも、どの時間帯からでも
お気軽にご参加下さい。

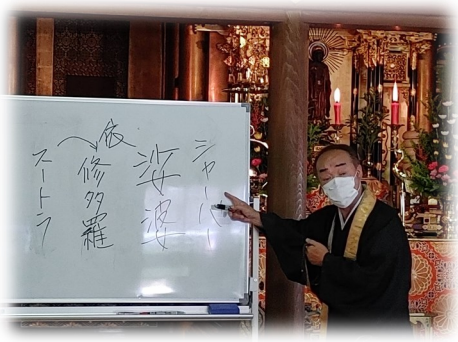
● 本年度の報恩講・永代経勤めについてのご案内 ●

令和二年より新型コロナウイルスの影響で縮小し実施してきた、当寺報恩講・永代経の勤めですが、本年度は通常に戻した開催とさせていただきますので、迫力ある唱和となります。僧侶方もお呼びしで、分かりやすいご法話をされている真宗系ユーチューバーの高科さん。五日は、前回、当寺でご法話されたとき、笑い声が多く生まれた定舎さんにお話しいただきます。もちろん、本年度もお斎（おとき：お寺ごはん）をご用意いたします。

乗円寺報恩講、永代経のお参り、ご都合のつく方は、この御縁にぜひお参り下さい。

お坊さんの小話 BONZE bodhimandala

QRコードを スマホで
読み込むことで高科さんの
お話動画を確認出来ます



乗円寺の新しいパンフレットが完成しました！

お寺に来たことがない人や、詳細や仕組みをあまり知らない方のために、まとめてみました。お寺の歴史、部屋の写真、お寺での葬儀、納骨堂、新しく出来た永代合同墓などを、分かりやすく、大きな字で記載してあります。

パンフレットは若い女性デザイナーさんが作成して下さいました。あたたかい素敵なパンフレットになりましたので、欲しい方はご連絡下さい。

裏面には、
百聞一見インタビュー！
星山石材社長　星山さん

住職の独り言 ～佛様は怒るの？～

先日、納骨堂の見学に来られた若い方に、「佛様は怒るのですか？」と聞かれました。その方は、親御さんを急に亡くされて、今後のことを考えていくためにお寺にお越しくださいました。少し状況をお聞きしましたが、いろいろ思うことがある様子。ご自身でもインターネットでいろいろと調べていらっしゃいました。人が亡くなった後のことや、佛様の世界を、浄土真宗の第八代法主である蓮如様は、「後生の一大事（住職訳：人が亡くなったらどこに還るのか。それを考え、今どう生きるのか）」と説明されています。このようなことを考えたり、聞いたり、知ったりする機会は、普段はなかなか作れません。そんな話を聞いたとしても、スッと心に入ってこないことも多いです。やはり、タイミングというものがあると思いますし、この方は親御さんを亡くした今が、そのタイミングだったのだと思います。蓮如様は娘さんを亡くされたときに「いのちのつきることはみんな変わらないのだから、いまこそ後生の一大事をみな共に真剣に考え念仏しましょう」とお話されました。

「佛様は怒るのですか？」の問いに、私もうまくお話出来たか分かりませんが、今こそ佛様がどんな方なのか、佛様・亡き人がいらっしゃる世界がどのような世界なのか、いろんなお話を聞いて出会ってほしいなと思います。

お参りをさせてもらい、人それぞれに佛様との出会い方があるなと思います。大切な方を亡くしたとき、自分のお体の問題が出てきたとき、節目となる出来事のときなど、さまざまです。時間がかかる時もありますし、分からないままのときもあります。出会うことで、考えてみることで、見守られているという安心が、少しでも心に広がり、今を見つめる機会となれば嬉しいです。世の中いろいろ変わろうとも、この不変的な佛様とその世界を皆さんと共にお守りしていきたいと思います。

浄土真宗開祖の親鸞様は、出会った佛様の教えを、「善人でさえ救われるのだから、悪人はなおさら救われる（他力本願）」と説明されています。この本当の意味は、悪人でいいということではなく、慈悲深い佛様（阿弥陀如来）の本来の願いは、仏の道に外れた者や、仏の道を全うできない弱い者も見逃さず救済してくださるというものです。親鸞様は、従来の仏教勢力から断罪され流罪となっても、仏教界の異端児と呼ばれても、念仏を唱えることで弱い人間すべてが救われるという教えを生涯通して守り抜きました。私が親鸞様と同じ時代に、僧侶として生きていたとしても周りに流され、同じことは絶対に出来ません。優しさ溢れる教えを守り抜くという強さがある親鸞様が、私は好きです。親鸞様が出会った世界、教えに感銘を受けた方々が受け継ぎ、長い年月をかけて歴史を作り、浄土真宗のお寺、念仏の場に今も届いているのだと思います。今年の五月に執行された、金沢教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌テーマは「よろこびは いつもここに ～今、親鸞さまに出あう時～」でした。それぞれが、それぞれのタイミングで佛様に出会っていきたいですね。

しばらく時間が経ったのであらためて、「佛様は怒るのですか？」と問われた若い方に伝えたい。あなたの出会った佛様は、怒っているかな？あなたの佛様は、今、あなたにどんなことをおっしゃってくれているでしょうか。

（住職）

発行所：乗円寺　金沢市石引1丁目4-20　TEL076-221-3421　Fax076-221-3449　E-mail:info@jouenji.net　印刷協力：川場印刷

ご要望、ご感想はお気軽にお問合せください。寺報、発送希望がございましたらお気軽に。　乗円寺　ホームページにも寺報原稿有！「乗円寺　金沢市」で検索！！

百聞一見

インタビュー

～まだまだ知らない世界を住職と見よう・知ろう～

世の中、いろんな変化が生まれる中、あらためて今まで大切にしてきたことの意味を確認し、時代の変化で生まれている新しいものの考え方も、皆さんと一緒に勉強していく百聞一見シリーズ。これからの未来を考えていきましょう。

星山喜久(ほしやま・よしひさ)さん
星山石材株式会社　代表取締役
聞き手・記事：中田有博さん

「思いをかたちに」をモットーに丁寧に仕事。

乗円寺の合同墓を制作した星山石材様に聞くお墓事情。

1970年9月生まれ。五十二才。大学卒業後、茨城県の石材店で約三年間修業した後、金沢に戻り、平成二十年に社長を継ぐ。愛知県岡崎市で石の加工職人として修業した弟さんと共に、堅実かつ誠実に運営している。関連会社に、墓地の造成・販売を行う株式会社タツミ、墓地管理を担当する一般社団法人墓地管理の久遠がある。

星山石材さんといえば県内では有名な会社ですが、

創業はいつになりますか。

創業は昭和十五年のことです。祖父が寺町で仕事を探していたところ、お寺さんから勧められて始めたのだそうです。あの辺りはお寺が集中している地域でありながら、当時は石屋さんが少なかったらしいですね。昭和五十四年に父が社長に就任したのを機に長坂に移転し、正式に会社組織にしました。今年で開業八十三年ということになります。

お墓の依頼は、だいたい年間百基ほどあります。たまに、ご本人やご家族の希望で個性的なお墓を作って欲しいというご相談もありますが、石川県の方は割と「普通でいいです」とか、「周りと一緒のものでいい」とおっしゃる方が多いように思います。

お墓の石は御影石(花崗岩)で、サンドブラスターやレーザーで彫刻します。基本的には日本産のものがお勧めです。やはり品質が高く、耐久性や見た目に優れていますね。他には、中国、インドのものが多いのですが、最近、カンボジアやベトナムの石も増えてきています。

お墓を新しくしたり、墓じまいをしたりすると、古い墓石が

残りますが、それはどのように扱われるのですか。

「お墓の石」ということで、丁寧に処分することが多かったですし、これからもそれが主流だとは思います。ただ、SDGsの観点から、最も大切な部分の石以外はコンクリートに使う砕石として再利用しても良いのではないかと考えているところです。何か良い形で社会貢献というか、還元ができればいいなぁと考えています。

先ほど、県内では個性的なお墓が少ないというお話が

ありましたが、何か印象に残っているものはありますか。

お子さんを亡くされたご両親が、船の帆をモチーフにしたお墓にしたいとご相談に来られたことがあります。赤い御影石と黒い御影石、二つの三角形を組み合わせたデザインで、ご家族の思いに沿うものになったと思います。

また、お一人、とても大きなお墓を建てられた方がいらっしゃいました。十m四方の区画にお墓のほか、灯籠や五輪塔、屏風、外柵などの付属品を建て、参道まで設けて。県内出身で、関西で成功された方ですね。打ち合わせのために何度も県外出張しました。

近年は価値観がとても多様化していますが、

お墓に対する人々の考え方はいかがですか。

弔い方では、樹木葬も少しずつですが、見られるようになりました。これは、当社でも対応しています。それから、石川県では許可されていないのですが、海洋散骨を選ぶ人もいます。送る側の気持ちも含めて、生前によく話し合っておくことが大切だと思いますね。「形のあるもの」がないと、心の拠り所に困る可能性もあります。

また、生前建墓あるいは寿陵(じゅりょう)とも言いますが、ご本人がお元気なうちにお墓を準備しておく方も結構いらっしゃいまして、年間のご相談の一割が実は生前建墓なんです。

寂しいなと思うのは、やはり墓じまいです。遠くに住んでいると仕方がないのでしょうが、「御骨は適当に処分して」と言われることもあります。

生前建墓の場合も、跡を継がれるお子様、特に息子様との話ができていないと、お墓を建てて亡くなったのに、すぐにお子様が墓じまいしてしまう、ということも現実に起こっています。やはり、先祖代々があっての私たちという、ご縁で生きていることをわかって欲しいなと思いますね。

乗円寺の墓地の合同墓では、何か

ご苦労された点はありましたか。

骨壷で百五十人分、麻袋に入れたお骨五十人分、合計二百人分のお骨を納められるサイズになっています。ご家族が、専用のお墓のように手を合わせていただけるよう、お花のそばに名札を掲げることができるようになっています。

また、最近は地震が多いので、骨壷を安定させる仕切りを設けています。黒い石はインドのクンナム、白っぽい石は中国の六・一・四(ロク・イチ・ヨン)を採用しています。コロナで中国からの見積もりが遅く、完成まで二年近くかかりました。

それでは、最後に今後に向けた思いをお聞かせください。

少子高齢化による人口減少が進む一方、お客様のニーズはますます多様化していくと思います。また、自治体による納骨堂の整備も盛んになっていて、経営環境は厳しいものがありますが、インターネットなど、IT関連のサービスも含めて時代に合ったサービスを提供して、お客様に満足していただけるように努めていきたいと考えています。